

農繁期 レポート

令和5年 7月号

ニールファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

株式会社 新流
三重県伊賀地区
9.0アール
玄米252kg
無農薬栽培コシヒカリ



生産者 ツライフ農園:北出茂樹さん

今月は畔草刈り以外にも地域の出合い作業が多くありました。河川の堤防・ため池の草刈り作業です。今年から中干し期間を長く取り、圃場のメタンガスの排出量を減らそうと思いましたが、長雨で逆にほとんど中干しが出来ませんでした。いわゆるカーボンニュートラルに貢献できなかったこととなります。その状況下でも稲は順調に成長し、幼穂を確認して穂肥(ほごえ)の散布作業を行いました。肥料を入れた重たい動力噴霧器を背負うのも一苦勞です。しばらくすると穂が見えてきますので、その苦勞も吹き飛びます。

7月の作業内容

1. 草刈り

今年は梅雨にしっかり雨が降り、雑草の伸び方が早く、何度も草刈りをするようになりました。そして、草も刈りすぎてしまうとイネ科雑草がさらに繁殖してしまうので、10cmくらい残して刈ることが理想です。

2. 無効分げつ抑制

稲株も繁殖しすぎると生育や収量に悪影響があります。お米の実る稲穂をしっかりと確保した後は、「無効分げつ(穂がならない分げつ)」を抑えるために間断かん水で8月の出穂(しゅつすい)までの水管理を行います。

3. カメムシ対策

カメムシがたくさん発生すると、米粒に斑点をもたらしたり、その結果食味が落ちたりします。農薬で防除することもありますが、畔草をしっかりと刈る(耕種防除法のひとつ)ことも立派な虫害対策となります。

4. 電気柵の設置

獣害は年々深刻になってきています。猪が田んぼに入ると稲に獣臭が付いてしまうので、侵入を防ぐべく早めに電気柵を設置します。写真の柵は低いですが、鹿の出る地域での柵は2m近くにもなります。



無農薬栽培のため草刈りによる防除となります。

